



さくらもち作りに挑戦!

女性部藤里支部（藤原京子支部長）は食農教育活動の一環として、6月14日、藤里小学校の家庭クラブに所属している5、6年生9人を対象に、さくらもち作り体験を実施しました。この活動は今年で4年目を迎えます。様々な地元産の食材を使った、調理体験は児童たちにも大人気です。

当日は藤原支部長のほか2人の女性部員が参加してくれました。はじめに、作り方の手本を見せたあと、児童らはさくらもち作りに挑戦しました。藤里産もち米のさくら色の生地に、藤里産のあずきで作ったあんこを入れ、形を整えて、塩漬けした桜の葉で包み、あっという間に約60個ものさくらもちができました。

児童からは「地元産の食材で作ったのでおいしさも格別でした」といった感想が聞かれ、また藤原支部長も「この活動も4年目となり、児童らも楽しみにしていると思う。これからも、子どもたちや地域のために活動を続けていきたい」と話してくれました。



↑上手に丸めています



↑作業に励む児童たち

野菜栽培、管理について学ぶ

女性部能代支部（佐々木博子支部長）は、6月20日、能代市農業技術センターにおいて、野菜栽培講習会を開催しました。この講習会は、支部員からの要望が多くあり、今年初めて行いました。

講習会には、女性部員、JA職員ら約10人が参加。技術センターの佐々木由紀子さんが講師となり、同センターで栽培されている作物の紹介や管理の方法を学びました。このうち、トマトについては栽培している参加者も多く、様々な質問が出されました。佐々木さんは、追肥の方法や肥料の紹介、低労力・低コストで育てる方法などを丁寧に教えてくれました。その他にも、スナップエンドウやキュウリ、ナスなどの圃場も見学し、参加者は熱心にメモを取っていました。

最後に佐々木さんは土壌改良剤の重要性について触れ、「土の状態は毎年変わるので、畑に入れる肥料は吟味してもらいたい。そして、土壌検査も3年に1回程度行うことで、土の状態がわかるのでぜひ行ってほしい」と呼びかけました。



←トマト栽培について学ぶ部員